

令和3年度スポーツ庁委託事業

障害者スポーツ推進プロジェクト  
「障害者スポーツ団体の連携及び体制整備への支援事業」  
成果報告書

2022年4月  
特定非営利活動法人日本知的障がい者陸上競技連盟

本報告書は、スポーツ庁の委託事業として、特定非営利活動法人日本知的障がい者陸上競技連盟が実施した令和3年度「障害者スポーツ推進プロジェクト（障害者スポーツ団体の連携及び体制整備への支援事業）」の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。

# 1 事業概要

## (1) 現状と事業趣旨

日本知的障がい者陸上競技連盟の課題として、登録選手数の減少がある。特にこの1年はコロナ禍もあり、組織運営の危機と考えられる状態にある。この要因の1つとして、競技会数が少ないことが挙げられる。障がい者陸上競技の関心意欲自体は年々高まっており、活動の場を求める声は多く寄せられているが、身体、知的、聴覚などの各競技団体の現在の組織力では、それぞれが実施できる陸上競技会は日本選手権など年1、2大会程度であり、参加できる障がい種別もそれぞれの競技会で限られている状況である。また、幅広い障がい者層への機会提供のためには、各地域における競技会開催が強く求められる。

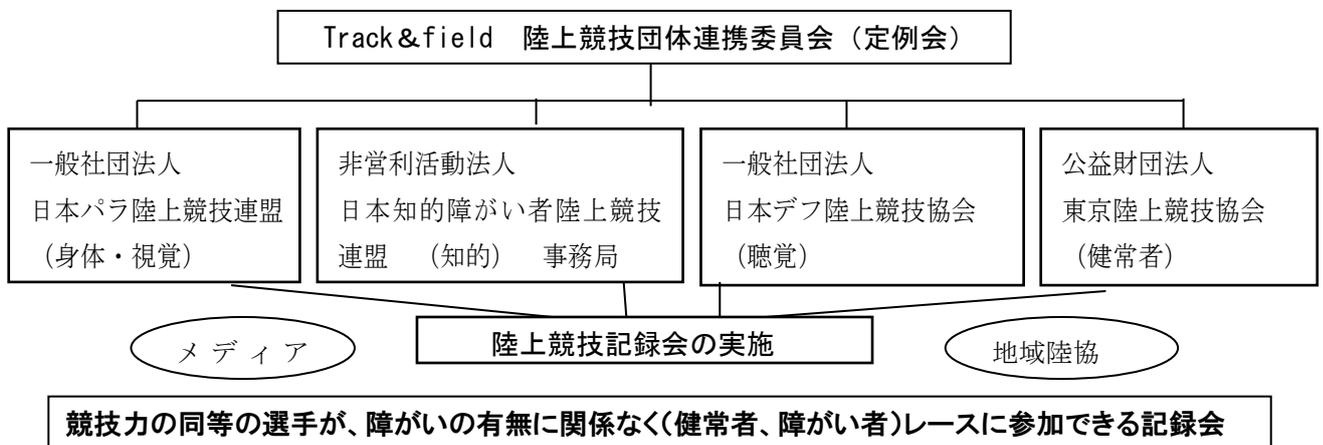
この課題の解決には、障がい者陸上競技団体間の連携を図り、競技会運営の効率化を図るとともに、障がい者陸上競技大会等における参加可能な障がい種別を拡大すること、そして、一般の地域陸上競技協会と連携し、障がいの有無にかかわらず参加可能な陸上競技会の開催を行うことが求められる。

そこで、本事業では、各障がい者陸上競技団体ならびに一般の地域陸上競技団体によるワーキングチームを発足し、各障がい者陸上競技団体における事務局体制や運営資金等の課題の共有、障がい者陸上競技団体と一般の陸上競技団体の連携体制の構築を推進する。そして、地域に根付いたインクルーシブな陸上競技モデルの創出に向けた組織基盤の構築を目指した。

## (2) 実施体制

インクルーシブな陸上競技会開催をめざした整備事業（地域連携モデルの構築）

各障がい種における活動方法や支援・指導方法、競技団体運営上の困難性、各競技団体の強み・弱みを共有し、競技団体の横断的連携を促進する



### (3) 委員会構成に基づく定例会議の開催

#### ・連携会議（全体スケジュールと主な内容）

月	会議項目、参加者	主な内容
9月	7日 定例会議① 参加者15名 菊池、兒玉、平松、山岸、奥松、森田、中深、今本、内村、小山、小林祐、柴田、高橋、竹見、小林雄 ・事業概要について ・大会の実施について ・スポンサー獲得	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3月21日大会は、フレンドリーな位置づけとして各団体の未登録者、支援学校在籍で陸協登録をしていない選手等を対象。</li> <li>・3月27日大会は、競技力向上の位置づけとし、各団体登録者、陸協登録者、エンドースも検討。</li> <li>・次年度のスポンサー獲得を目指す。</li> </ul>
9月	16日 スポンサー会議① 参加者5名 風間、平山、河野、小山、奥松 24日 20時～マーケティング勉強会 参加者22名 講師パラネット（風間、平山、河野、3名）橋本、小山、平松、工藤、菊池、兒玉、小林祐、奥松、竹原、塩田、浅野、伊達、今本、下稲葉、柴田、小林雄、門脇、砂田：手話通訳、内村 29日 知的陸上実行委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マーケティングの目的（共通理解）</li> <li>・今後の各団体の協賛金獲得方法、協賛金で何をしたいのか？各NFで考える機会。</li> <li>・資金に関する情報提供。</li> <li>・ポスター原画を東京都永福学園（知的）に依頼。</li> </ul>
10月	4日 定例会議②20時～ 参加者14名 菊池、奥松、浅野、山岸、小山、関、工藤、今本、兒玉、小林祐、柴田、高橋、竹原、小林雄 ・大会に関すること 参加料の徴収について ・大会スポンサーについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公認の部、非公認の部を検討。</li> <li>・親子で出場できる種目、パラ選手と共に参加できる種目等を検討。</li> <li>・健常者の大会に障がい者が参加する場合の課題</li> <li>・スポンサー獲得について。</li> </ul>
11月	4日 スポンサー会議②20時～ 参加者22名 博報堂講師：川嶋、鈴木、小嶋、参加者：増田、塩田、奥松、浅野、山岸、小山、橋本、竹原、吉田、関、今本、兒玉、菊池、池辺、工藤、内村、平松、中深、小林 日本陸連・障がい者団体登録者ランキング作成検討→プログラム掲載	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポンサーシップの定義、目的、SDGs、求められるポイント</li> <li>・活動を商品化する。メディアは露出から質的へ。</li> <li>・代理店の活用方法</li> </ul>
12月	4日 定例会議 18時半～ 参加者12名 奥松、関、小山、高橋、工藤、山岸、門脇、中深、今本、竹原、小林、手話通訳：内海 ・大会に関する確認 ・交流イベントについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・種目に関する確認</li> <li>・2大会エンドース申請をWPAに行く。</li> <li>・配送方法</li> <li>・調査 障がい者が参加可能な大会</li> </ul>
1月	14日 定例会議③19時～20名参加者、森田、中深、内村、平松、菊池、工藤、小山、関、兒玉、橋本、水野、大島、高橋、山岸、門脇、奥松、今本、柴田、浅野、小林 ・エントリー開始について ・交流イベント等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役割分担、制作物、発注物の確認</li> <li>・障がい種別ではなく純粋な記録で検討。</li> <li>・医師の確保。</li> <li>・ブース出展について。</li> </ul>
2月	4日 定例会議④20名 参加者、森田、中深、内村、菊池、関、小山、工藤、平松、小林ゆ、大島、奥松、今本、柴田、浅野、山岸、門脇、竹原、小林雄、手話通訳：砂田 ・エントリー状況、注意事項等 25日 18時～20時 19名参加者 森田、内村、奥松、関、工藤、小山、平松、高橋、水野、井内、兒玉、大島、今本、柴田、竹原、浅野、山岸、藤岡、小林 ・受付（団体・個人）事前準備等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大会周知（東京陸協 HP、月間陸上競技、陸上マガジン、オンライン Twitter にて周知）。</li> <li>・参加者人数の確認</li> <li>・交流イベントについて</li> <li>・競技注意事項</li> <li>・各分担表に沿っての現状確認</li> </ul>
3月	4日 定例会議⑤ 18時半～23名 参加者：奥松、菊池、工藤、門脇、関、小山、山岸、今本、浅野、中深、水野、西田、小林ゆ、平松、竹原、内村、兒玉、森田、柴田、橋本、大島、小林雄、手話通訳：砂田 ・分担と進捗について	<ul style="list-style-type: none"> <li>21日関係者数（JIDAF14名、JPA20名、デフ協会10名、特別支援学校体育連盟12名、東京都ID連盟2名）クラス分け実施について</li> <li>27日大会関係者数（ID12名、JPA18名（クラシファイヤー6名）、デフ協会9名、東京ID連盟3名 特別支援学校体育連盟9名）全体 来賓9社 35名 視察4名</li> </ul>

#### (4) 障がい者陸上競技団体における大会運営資金等の課題

定例会議では、各障がい種における活動方法や支援・指導方法、競技団体運営上の困難性、各競技団体の強み・弱み、スポンサー獲得のためマーケティング勉強会等を実施した。

##### ①各障がいに応じた配慮や器具

障がい者陸上競技会を実施するためには、各障がいに応じた配慮や器具が必要であり、人員の確保や運営資金が課題となっている。世界・アジア記録公認になるためには、スターティングブロックの規格を使用する必要がある。また、聴覚障がいのある選手のための光スタートランプや、手話通訳士の配置、知的障がい者選手をはじめとするサポートが必要な選手への配慮として、召集所等への人数増員等、人件費も一般の大会以上に必要なことが明らかになった。

##### 障がい者大会で特有の費用（参考）

	品目	金額	備考
WPA 公認種目	スタートインフォメーションシステム アジア・世界記録公認の必須条件	50 万円 程度	NISH
聴覚	光刺激システムフルセット(スタッフ派遣)	25 万円 程度	NISH
車いす利用者	駐車場確保 (貸し切り等)		

現在、座位投擲台もレンタル可能（日本パラ陸上競技連盟）

#### 【聴覚障がいのある選手への配慮】

##### ・スタート時

光刺激スタートシステム（通称：スタートランプ、NISHI 製）を使用。400m までの種目においては、クラウチングスタートに合わせて地面に置く型。

**「赤」で「On your mark」、****「黄色」で「Set」、**「白」でスタートの3色が光る。800m 以上はスタンディングスタートに合わせて、スターターの近くに三脚式のものを設置。

**「赤」と「白」の2色。**

**360 度どこからも見えるように設置でき、観客への情報保障としても使用。**

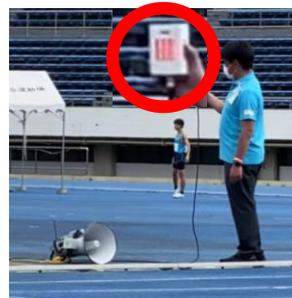


聴覚障害のあるランナーにスタートのタイミングを知らせる「スタートランプ」を体験するゲストの川内優輝選手（左）。ランナーの脚の間にあるランプの色が変化し、赤が「位置について」、黄色が「ヨーイ」、白が「ドン（スタート）」を意味する。5月のデフリンピックでは日本製のスタートランプが使用される予定

##### ・召集所などでの配慮（手話通訳がいない場合）

召集所は音声で呼ばれるが、表示**”「O組」がコールを行っている”**を出す。

**レーンを読むときは指で数字を示すなど目視で分かるような工夫。**フィールド種目では試技順や記録を、**誘導や案内において、審判員の方が教えてあげるなど配慮。**



【視覚障がいのある選手への配慮（跳躍）】

1 mの踏切エリア（石灰）を使用。



【座位を使用する選手への配慮（投擲）】



WPA 競技規則及び規程 2020 - 2021 版

<https://acrobat.adobe.com/link/review?uri=urn:aaid:scds:US:c455e883-1d23-36e8-8aee-1d8e374845fd>

②大会運営資金に関する課題（スポンサー獲得のための勉強会を実施）

勉強会資料一部抜粋

寄付と協賛について

寄付

協賛

スポンサー

見返りを求めない  
 ※主に企業の CSR 部署が担当  
 寄付をすることで社会貢献が目的

見返りを求める(ビジネス)→広告・広報効果を期待  
 ※主に企業のマーケティング広報部が担当  
 コンテンツを使った広告活動が主目的

なぜ？宣伝にスポーツコンテンツを使うのか？

⇒企業としてライバル企業との“差別化”を図る。その一つとしてスポーツコンテンツがある。  
 スポーツ（プロ・エキストリーム・パラ）など企業の特性や特徴にあったスポーツに協賛したりコラボレーションを行いマーケティング（宣伝）活動を行う。

企業マーケティング

⇒同業種のライバル企業と“差別化”を図り、自社ブランドを向上させ自社商品やサービスの売り上げを上げるための活動。NF のスポーツ協賛に必要なのが NF 自身のマーケティング活動。

必要なこと自分たちだからこそできる（企業に返せる）ものは何か？

- ①競技団体のビジョンを明確に打ち出し、企業や自治体から共感を得る。
- ②競技特性を活かし、企業の要望を察知することで貢献できる部分を磨く。
- ③大会やイベントに、少し観客視線を加えることでワクワク感を演出する。

スポンサーのかかわり方 **《関わりあうことで社会や意識を変える⇨パラスポーツの価値》**

【器具装置の開発】 【ダイバーシティーな社会づくり(ハード・ソフト)】 【コミュニケーション発信】

【強化に向けた支援】 【競技を知る・楽しむための観戦促進支援】 【体験イベントの実施・競技普及】

(5) 障がい者陸上競技団体と一般の陸上競技団体が連携した大会の開催  
「オール陸上競技 フレンドリー 記録会」

3月21日（月）駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場

(趣旨)

障がいのある人もない人も、一緒に競技場に集い陸上競技に親しみ、競技することでお互いを理解し、認め合う。関係する各競技団体が共に運営に携わることによって、障がい者スポーツの認知度を上げ、障がい者の広い社会参加を促進し、陸上競技の普及拡大を図り、活力ある共生社会に繋げていくことを目的とする。

「オール陸上競技 チャレンジ記録会」

3月26日（土）日本体育大学健志台グラウンド（投てき種目）

3月27日（日）駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場

(趣旨)

障がいのある人もない人も一緒に競技場に集い、陸上競技に親しみ、競技することでお互いを理解し、認め合う。関係する各競技団体が共に運営に携わることによって、障がい者スポーツの認知度を上げ、障がい者の広い社会参加を促進し、陸上競技の競技力を向上、活力ある共生社会に繋げていくことを目的とする

**【参加者】**

フレンドリー記録会延べ407名

チャレンジ記録会駒沢470名・日体大記録会（投擲のみ）35名

・記録会参加人数・参加者属性・障がい種別

		視覚	身体(車いす)	身体(立位)	聴覚	知的
フレンド リー記録会	男子	4	7	37	5	20
	女子	3	2	9	7	8
	計	7	9	46	12	28
チャレン ジ記録会	男子	14	19	48	17	73
	女子	6	10	20	12	16
	計	20	29	68	29	89
合 計		27	38	114	41	117

	(男子・女子)	視覚	身体(車いす)	身体(立位)	聴覚	知的
10名	小学校フレンド	0・0	0・0	2・0	4・2	2・0
59名	中学校・高校F	0・0	0・1	2・1	5・8	3・1
	中学校・高校C	0・2	0・2	13・1	0・3	11・6
268名	一般フレンド	14・5	19・8	43・18	12・4	63・14
	一般チャレンジ	4・2	7・1	25・9	1・2	12・4

**【大会時の工夫】**

①競技会運営に係る、企画運営、事務手続きの実施

競技役員においては、東京陸協から審判員130名を選出頂き、東京都近辺の特別支援学校、及び東京都ID連盟の方々のご協力、大会当日は早朝から競技運営に関わって頂いた。また、パラ特有のWPAランキングにも反映できた。障がい種により、細かいルールや、競技運営配置（手話通訳、光スタートの設置等）等、特別な配慮が必要な場所が多々見られ、各競技団体の協力で無事実施できた。また、その様子を、健常の選手が同じ場所で、参加したことに意味があったと感じられた。

## ②交流イベント企画

マーケティング勉強会から魅力ある大会づくり・交流イベントの計画を実施

**フレンドリー交流イベント 2022年3月21日（世界ダウン症の日）**  
 14時半～15時半（小雨決行） 駒沢陸上競技場にて

主催：日本知的障がい者陸上競技連盟  
 共催：東京陸上競技協会 日本/パラ陸上競技連盟 日本テフ陸上競技協会

ゲスト



あべけん太 (ダウン症のイクメンタレント)  
 今井絵理子 (女優/タレント)  
 川内優輝選手 (元NBA選手/バレーボール)  
 後藤佑季 (元NBA選手/バレーボール)  
 小林祐梨子 (日本テフ陸上競技連盟理事)  
 増田明美 (東京陸上競技協会会長)

21年度の染色検査結果を  
 あることから原因は  
 染色体で定めた  
 診断書。詳しくは  
<https://jiten.or.jp/weds>  
 @2022



参加条件 オール陸上競技フレンドリー記録会の参加者（家族）及びスポンサー かけっこ好きの人！体験したい人！障がいのあるなしに関係なく集台！

**初心者陸上（かけっこ）教室コース**  
 ★歩きから走りにつながる動きづくり  
 <スペシャルコーチ>  
 ヤマダホールディングス  
 陸上競技部

**体験コース**  
 ★光スタート30m（デフ体験）  
 ★レーサー試乗  
 ★フレームランニング試乗（新種目）

★世界ダウン症の日を記念して  
 ダウン症のチャレンジャーも招待！

詳細につきましては、今後各団体のHPにてご確認ください。

【スポンサーリレー】

各種体験会（3種目）

プロアスリートによるかけっこ教室

「世界ダウン症の日」イベント

SDG s メダル活用

【フレームランニング】 【光スタート】 【かけっこ教室デモンストレーション】 【SDG s メダル】



【かけっこ教室・体験者にプレゼント】

【レーサー体験】 【リサイクルメダル】

### （6）事業の成果と課題

- ・コロナ禍ではあったが、健常者、障がい者（すべての障がい種からの参加あり）共に半分の割合での参加となり、インクルーシブな大会を実施することができた。東京都近辺の特体連（特別支援学校体育連盟）に大会案内文書を発送し、大会への呼びかけを実施したが、申し込み時期が蔓延防止期間であったことから、部活動や練習に制限がかかる時期で、申込者が少なかったが、小学校から高校まで、69名の参加があった。
- ・特別支援学校への呼びかけを前提とする中で、大会ポスターを東京都立永福学園の生徒に作成依頼し、ポスター作成も大きなパラレガシーの財産となり、様々な参加方法（支える）があることが再度認識できた。
- ・申込書については、申し込み受付時期を最初に、障がいのある方を最初に受け付けることで、対応をしっかりと行うことができた。
- ・すべての障がい種と、健常者の参加で実施することは、両方の立場で意味があること（刺激・感動・気配り）等に気づかされる大会となった。
- ・選手及び関係者にアンケートを実施することができた。
- ・正確でスムーズな大会会計処理として、当初300人程度であったが、四団体連携会議

で内容を検討し、1500人規模の大会に変更。参加料をとることで、自己財源内での清算を目標としたが、コロナ禍で参加者が、800人程度で予算を下回る結果となった。

- ・マーケティング勉強会で、スポンサー獲得の目的も明確になった。
- ・会計報告については、3月27日大会終了で、東京陸協の皆様への事前確認など、協力頂いたが、事務局の負担が年度末と重なりかなり大きかったことから、大会の時期が今後の課題となった。

### 【競技団体の活動状況と地域連携の取り組み・展望】

現状、各競技団体の組織規模が異なっているが、各団体の共通課題が・選手発掘の困難さ・地域差があり環境整備が困難・専門の指導者不足・活動資金不足が考えられる。

今回の事業を通して、選手発掘、活動資金確保の手立てとして、各競技団体に役立つ情報が得られたことは大きいと考えられる。また、各競技団体の、中長期計画は以下の通りで、各団体の中長期計画ともリンクする大会であった。

各団体の特色（中長期計画より一部抜粋）

- ・ 日本パラ陸上競技連盟  
支援企業との協働『社員よし、パラ陸よし、社会よし』の活動。
- ・ 日本知的障がい者陸上競技連盟  
知的障がい者への理解や魅力（価値）を整理し、地域・社会へ発信（競技会の様子等）。地域陸協主催大会への大会参加。ダウン症（新規障がい種）の活動。陸上教室。
- ・ 日本デフ陸上協会  
登録者を100人目標。聴覚障がい者陸上の魅力の周知（ポータルサイト・SNS）。デフスポーツの振興を推進に関する協力の獲得。スタートランプの使用がデフの特徴的な器具。健常の方に体験（魅力）。

### 【障がい者と健常者が参加可能な大会】

本事業では、世界・アジア記録公認の大会として各障がい者の陸上競技団体と東京都陸上競技協会が連携して実施した国内初の大会となった。地域においては、公認記録の大会ではない場合もあるが、健常者と障がい者が参加可能な大会が実施されている。

（例1）近畿アンリミテッドパラ陸上

<https://acrobat.adobe.com/link/review?uri=urn:aaid:scds:US:dcd6ed72-ca69-38e8-9f1c-3df0de73e17b>

（例2）2021高松UD記録会

<https://acrobat.adobe.com/link/review?uri=urn:aaid:scds:US:f66b1642-b90f-33c4-b84d-4110662babdc>

（例3）小学生かけっこ大会と障がい者大会が同日で合同の大会（宮崎）

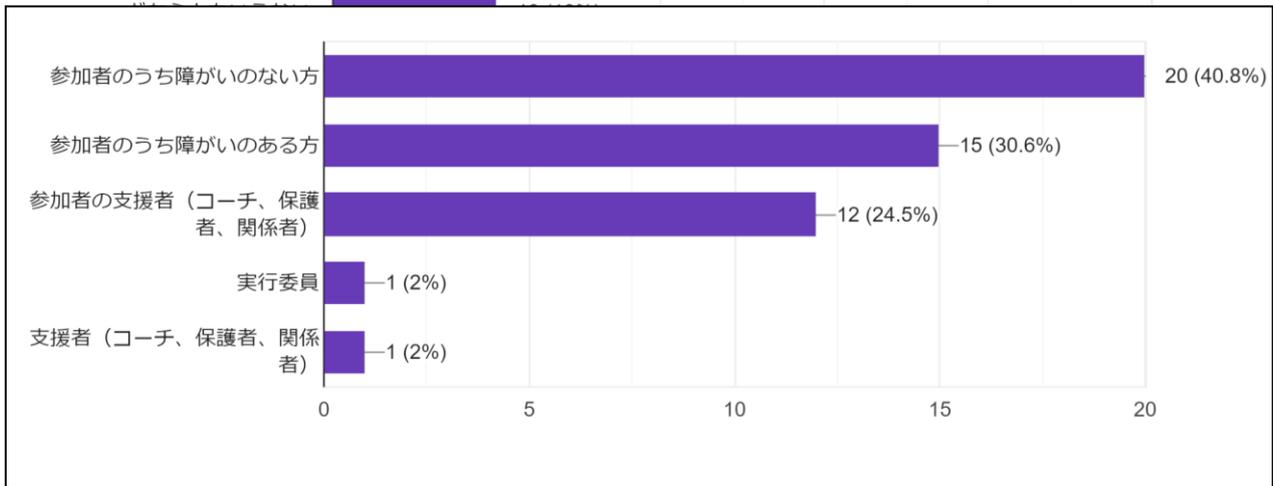
<https://acrobat.adobe.com/link/review?uri=urn:aaid:scds:US:b7ace20d-67fd-3c13-bd34-c3529890327d>

質問1 今回のオール陸上競に関わって、いかがでしたか？

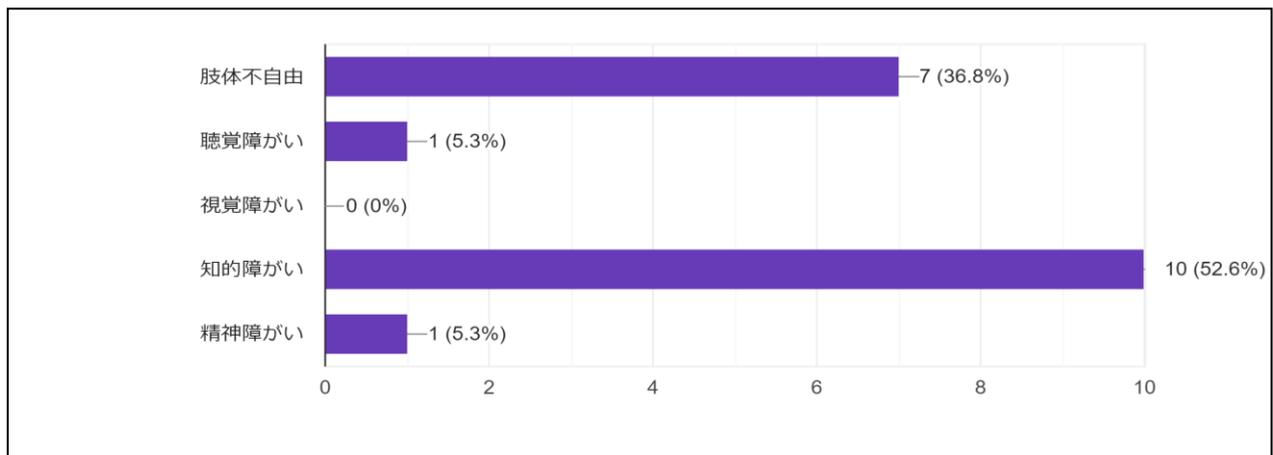
100件の回答



10

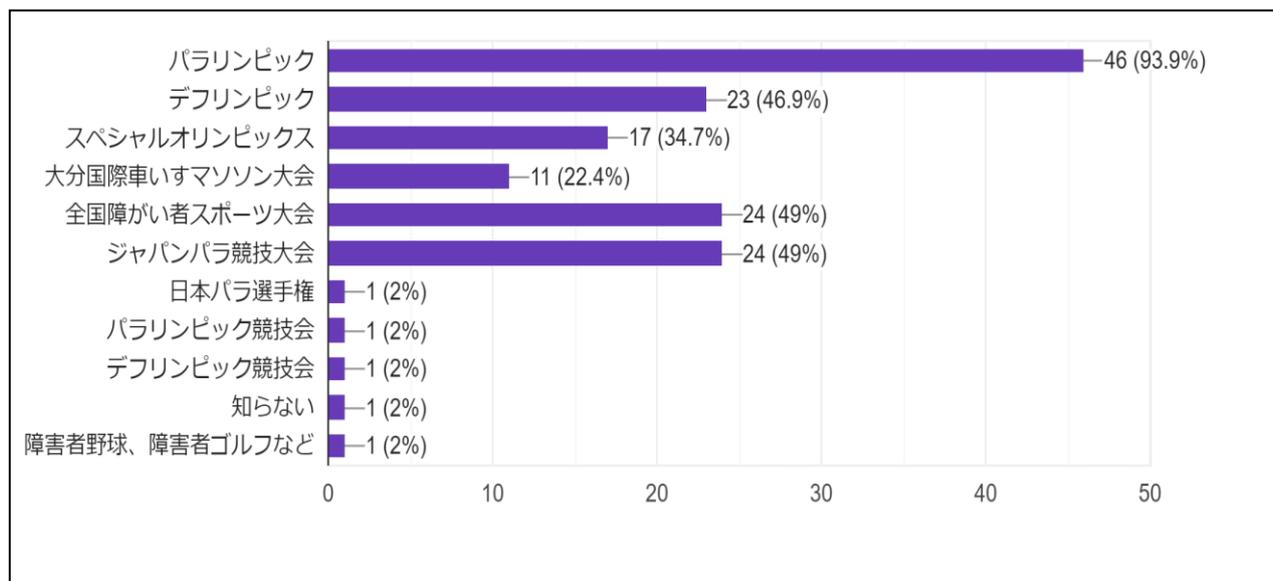


・ 障害種別



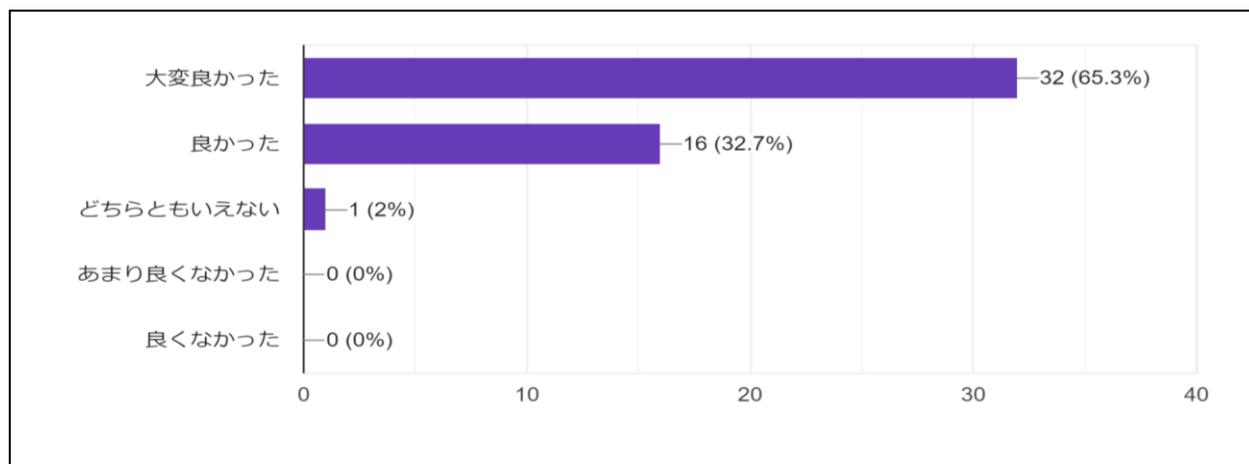
・ 障がい者スポーツ大会で知っている大会（複数回答）

(n=49)



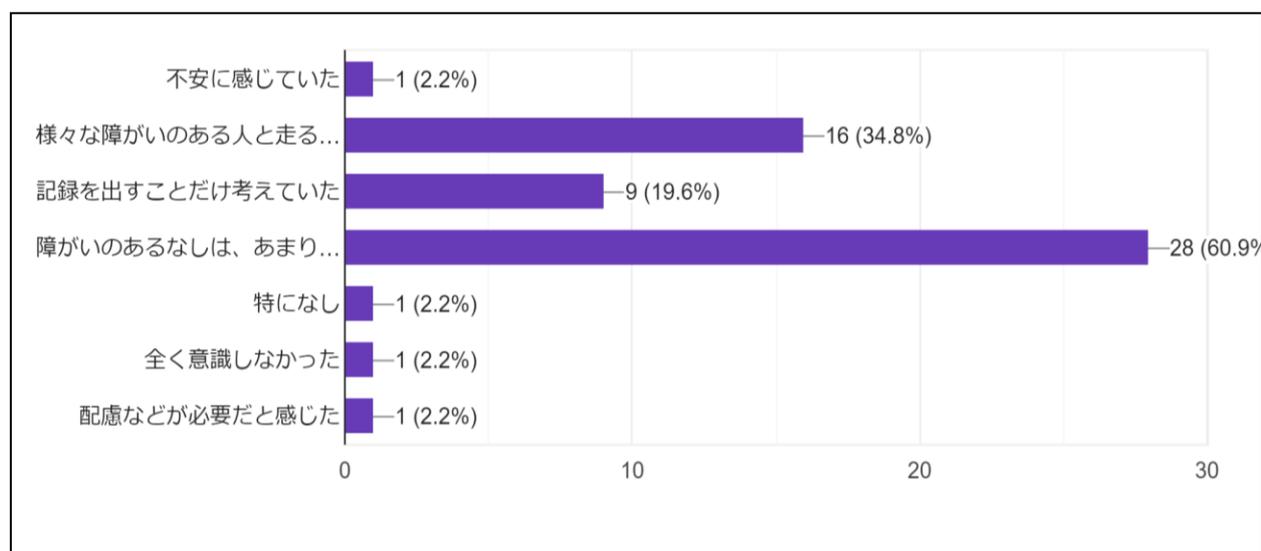
・記録会に参加していかがでしたか。

(n=49)



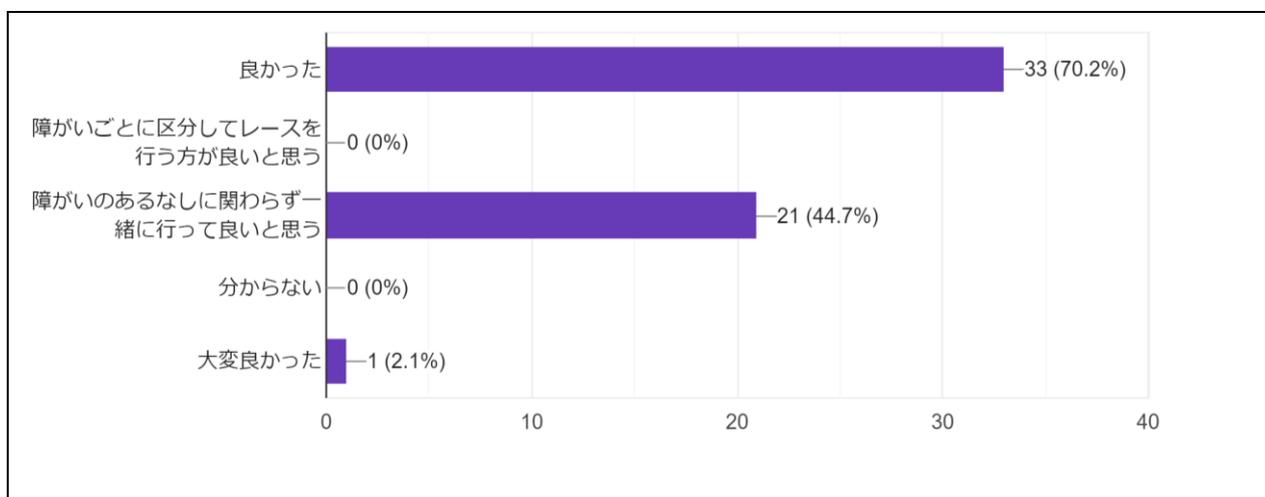
・オール陸上会に参加する前について、さまざまな障がいのある人と一緒に記録会を行うことに対してどのように感じていましたか。(複数回答可)

(n=46)



・障がいのあるなしに関わらず、一緒に競い合ったことに対してどう思いましたか。(複数回答可)

(n=47)



## ・記録会の感想、気付いた点（自由記述）

- 楽しかった。とても満足している。（6件）
- 障がいのあるなしにかかわらず楽しむことができた。（4件）
- またこのような大会を開いてほしい。（3件）
- 役員、スタッフの対応が良かった。（4件）
- 100mをフライングしたけど他は頑張れたから良かった。
- 障がいがある人が走っているのを見たら、応援したくなりました。様々な障害がある人と走れて楽しかったです。いい機会になりました。
- 息子が入っているクラブで監督さんの思いが叶った大会でした。
- 健常者と障がい者が入り交じって参加するスタイルがとても良かったです。いつかこれが「普通」となる日が来ると良いなと思いました。手話で会話したり、義足や車椅子を間近で見せてもらったり、障がい者との交流を増やせる機会として今後も継続して頂きたいと切望しています！本当に楽しい競技会でした！ありがとうございます！
- 小学生 100mは開場から招集までの時間が短かったこと以外は、大満足な大会でした。
- 色々な障がい者と健常者が一緒に大会を行う事で、日本だけではなく、世界に貢献出来る事を望み、少しずつ平和をもたらしたい。
- 純粋に競技を楽しく見る事ができました。質問3でも答えましたが、本当にあまり障がいの有無がわからず（意識せず）純粋に記録を目指して楽しんでいました。（本人が）
- 今後もこういった大会が増えたり、非公認の種目も増えていくとありがたいです。
- 見た目じゃわからない障がい者も多いのでアナウンスとかできた方がいいのかな？と思った。
- 5000mに出させて頂きました。周回遅れのランナーにもあと何周というカードを出して頂き、有り難かったです。幅跳びレジェンドの山本篤選手、東京パラリンピックメダリストの和田伸也選手とご一緒頂き、嬉しかったです。
- 改めて自分が四肢満足でいられることのありがたみを感じ、体に障がいを抱えながらも努力を続けている皆さんを素晴らしく感じました。
- 今回 800mに初めて出場して、すごくいい経験になりました。障がいのある方たちと記録会をやってどのようにスポーツをするのかななどを学ぶことができました。
- 参加の目的は様々だと思いますが、普段分けられている人と共に陸上競技を楽しむ貴重な機会でした。そういう意味で価値のある大会だと思います。
- 短距離では、PB（パーソナルベスト）をパフォーマンスすることが出来て良かったです。
- 障がいのあるなしに関わらず、みんなが頑張っている姿を見ていい刺激をもらえました。個人的にも、自己ベストではなかったけど、それなりに満足できる記録でした。午前中は寒かったですね。ゴール後の増田明美さんのねぎらいの言葉が嬉しかったです。このような機会を設けてくださることに、感謝しています。どうもありがとうございました。
- 障がい者の親です。子どもは陸上部ですが、今まで参加できる大会がなく、初めての大会でした。障がいの有無にかかわらず、一緒に走れたのが、とても良かったです。障がい者と健常者を区別することなく、一緒に競技できることが普通になることを願っています。

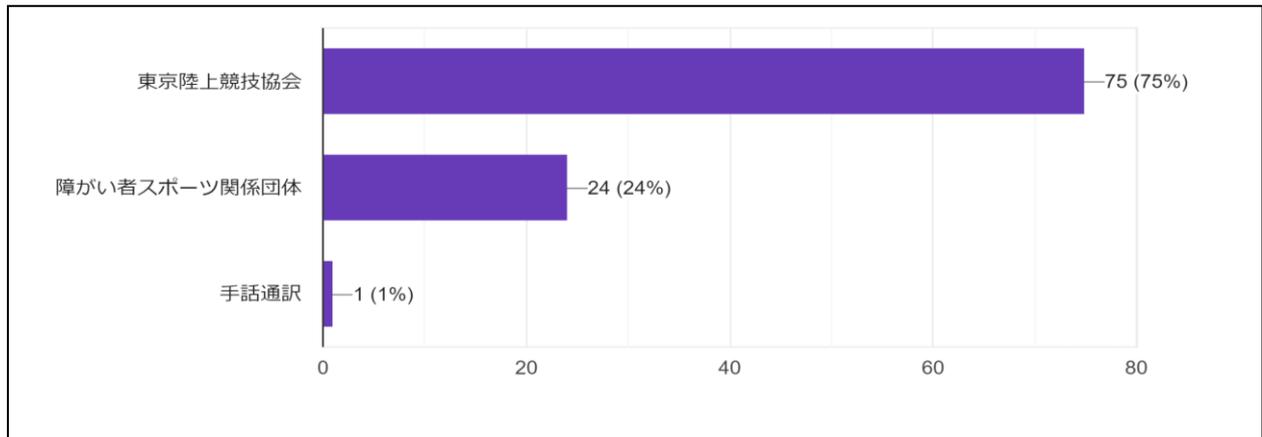
(課題等)

- スタートランプ（聴覚）がある大会は少なく、地元の大会でも設置してもらえると有り難い。
- 要項がわかりにくく、日本陸連登録をしているのに、非公認となり、健常者と走れなかった。
- 開催ありがとうございます。800mに参加した重度知的障がい者の支援者です。知的障害区分は1つで、その中では理解力は多様です。重度知的障がい者にはスタート直前までの支援が必要です。彼には走る以前に、スタート直前までの行動において体得しなければならないことが、軽度知的障がい者と比べても数十数百倍も経験が必要です。体得に数十数百回という機会が必要な重度知的障がいのある参加者が、限られた大会経験の中で、適切な支援なく1人で実力を発揮することは困難です。理解に相当な回数が必要でも、彼らは学んでいきます。彼らが貴重な大会経験の中で学んでいくためにも支援が必要です。また800mではT4で失格となりましたが、それは事前に予測していました。ブレイクラインというルールを理解することが相当に困難だからです。競技をする上で走ることとルールを理解することは障害のない方にとっては当たり前にセットですが、彼には別物です。それぞれに相当な経験が必要です。可能であるならば、コーラーのように、ブレイクラインを超えた場所に支援者を置き、支援者の位置までは自分のレーン、その後は内側に、といった、重度知的障害者にとって競技上必要な支援の検討をお願いいたします。陸上競技のルールとしてはあり得ない提案であることも承知の上で書かせていただきました。障がいのあるなしに関わらず全ての競技者が共に理解し実力を発揮できる機会にご尽力をいただいていることに感謝いたします。このようなアンケートの機会をいただけることに誠に感謝いたします。
- 重度知的障がい22才の保護者です。本日は記録会の開催をありがとうございました。また、理解ある係の方によるスターティングブロックの設置やスタートまでの声かけに誠に感謝いたします。希望することが2点あります。①視覚障がいの方のように、選手と共に練習をしてきた介助者の、スタートまでのサポートを希望します。理由は、係の方がとても良く対応してくださっても、意図や意思を本人が理解することが困難で介助者であれば、本人が理解している単語や見ているジェスチャーで伝えることにより、本人の行動に結びつく。また、知的障がい者は、理解が困難なのであげるのではなく、困難であっても健常者の何十何百倍の経験から学んでいくことができる。そのために、大会時に走ること以外の部分で本人ができるようにしていく経験のための介助者が必要。②オール陸上が国内大会に先駆けて、知的障がいT20のクラス分けの細分化をすることを希望します。知的軽度、中度、重度では、身体障がいのクラス分けに匹敵するほど、障がいの程度としては別物。重度知的障がい者は自分の身体的部位と走るものの関係性や、知識を持って理解しフォーム等に活かすことが相当困難。彼らが陸上競技において、適切なクラス分けの中で希望を持って練習や大会に挑むためにも、オール陸上関係者皆様のお力を知的障害者にお貸しください。
- 男子5000mの1組と2組のタイムテーブルの表記の色が違っており、別の種目かと勘違いした。同じ種目であるなら、同じ色または同じ枠内に記載にしてもらえると良かったです。ただ、別の紙に組み替えてもらうなど、救済して対応して頂き、ありがとうございました。
- 非公認ではなく、オープンとかの表記をしてほしい。「非」というだけで、モチベーションが下がった。また、日本陸連に登録しているのに非公認となり、選手によって分かりづらい。
- 大会自体に問題はなく、とても良い大会でした。ただ、視覚障がいの幅跳びをしている最中に、大声で話したり、拍手などは、配慮が必要。

## 【大会関係者へのアンケート結果】

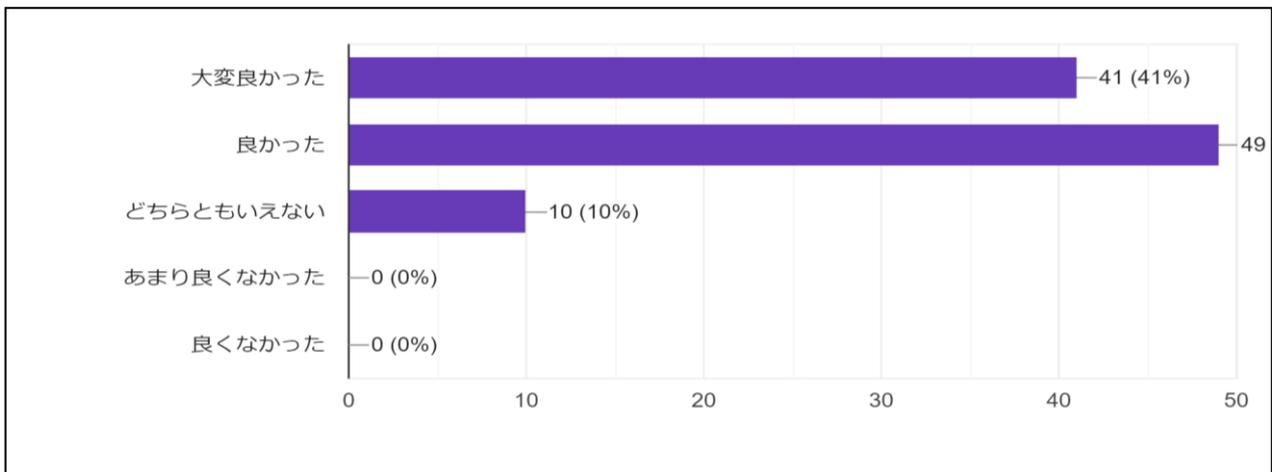
### ・回答者の属性

(n=100)

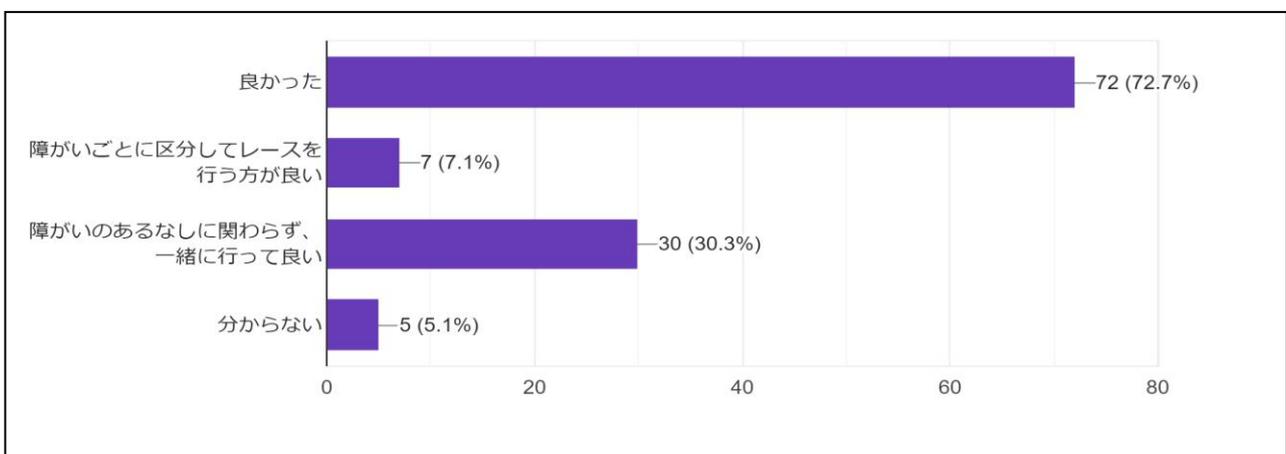


### ・今回の記録会に関わって、いかがでしたか。

(n=100)



### ・障がいのあるなしに関わらず、一緒に競い合ったことに対してどう思いましたか。 (複数回答可) (n=99)



## ・記録会の感想、気付いた点（自由記述）

### （選手の様子）

- 障がいのあるなしに関わらず一緒に参加できる大会は良いと思った。（多数回答あり）
- 障がいのあるなしに関わらず楽しんでいる様子がみられて良かった。（5件）
- テレビ等でパラ大会をみて、全力を出す行為に感動したが、実際に観て更に感動した。

### （オール陸上の目的）

- 障がい者と健常者とか壁をなくし、一つの競技会を作れたことが素晴らしかった。（3件）
- このような大会を今後も実施すべき。（3件）
- コンセプトが良い（2件）
- 健常者と障がい者が一緒に出来ること、もっとアピールすべきと思う。
- 健常者と様々な障がいのある方々が陸上競技を通して共に成長し合う大会として、今後のモデル事業になると感じた。
- 障がい者との垣根がないことを子供やスポーツを通して知ってほしい。
- 健常者アスリートのパラ陸上への認知や理解が進んだと思う。
- 障がいのあるなしに選手と一緒に走ることは良いことだと思う。お互い理解して選手同士が楽しくレースを楽しんでいたと思う。一般の選手と一緒に競技することが、障がいのある人達も励みになり良かった。
- イベントとしての一体感があった。

### （競技審判の感想等）

- 楽しかった。（多数回答あり）
- 障がいの有無に関係なく、一緒に競技会を行えたことで陸上競技の魅力を改めて感じた。
- 障がいある無いか関わらず子どもから大人までと一緒に競技する大会に関わられて良かった。
- 東京パラリンピックを終え、パラ陸上への理解を深め、もっと普及させていくには、競技者同士の壁を取り除くことも必要なことだと感じる。
- 昨年のパラリンピックをきっかけに、パラ競技に興味を持った。
- 子供たちや保護者が楽しめたところが良かった。・選手が生き生きしていたように思えた。・アットホームな雰囲気楽しい競技会だった。
- 障がいのある人達の発表の場が多い方が良い。
- 初主催での中、色々課題点が出てきたが、各団体で情報共有、21日大会での反省点を振り返り、それぞれ協力し合えたことはとても良かった。
- 健常者だけでなく障がいのある選手の審判をすることで様々な気付きが得られた。
- 健常者と障がいのある方が一つの種目で競っている姿がとてもよかった。
- デフ（聴覚）の日本代表選手たちの喜んでいる姿が印象的だった。
- 手話通訳が配置されていてよかったと思いました。（ゴール地点）
- 各団体が枠を超えて、また、障がい者も健常者も一緒に大会ができることは素晴らしい。
- 障がい者が一緒だが、基本のルールはWAと同じ。一部が特別だが、別の競技会と考えている関係者がいた。
- パラリンピック、デフリンピック競技特有のルールを確認することができた。

#### (競技団体等の関係者)

- 障がいの有無にかかわらず楽しめる大会が素晴らしいと思った。(多数回答あり)
- 4団体が一緒に運営することはこれまでは無く、ごちゃまぜがとても良いね。と参加した方々から聞いてやって良かったと思った。
- 普段は他の障がい者団体と大会運営、サポートするという機会がほとんどなく、また他の障がい者の試合も観たことがなかった。
- 普段使わない装置を使用し良い経験になる。
- 東京陸協、各団体も柔軟に対応して頂いた事が大変素晴らしかった。
- 大会運営を協力し合いながら行うことで4団体の連携をさらに強めることができたので、良かったと思う。

#### (改善点・課題)

- それぞれの運営方法が異なるため、事前共有が必要。
- 大会プログラムに障がい種目の説明は良い内容なので、プログラムの最後ではなく、中のページに小出しに入れた方が目につくと思った。

#### ・記録会で気付いた点など(自由記述)

#### (競技運営)

- 蔓延防止等重点措置の中、コロナ対策を十分に頂き開催できた事はとても良かった。
- 聴覚関係者の方に身振り手振りで伝えたが、結構伝わると感じた。
- 審判員も、ゆっくりと指導すると良い。
- パラ・デフ陸上について、もっと知識を待ちたいと思った。
- 現場スタッフ、かけっこ教室コーチの方々の親切で心のこもった対応は素晴らしかった。
- 東京陸協の皆様へ感謝。日本パラ陸上、知的陸上、デフ陸上、ダウン症協会などが互いに顔を見合わせて協力し合うことで、オール陸上の基礎となる記録会の開催ができたことは意義深いと感じた。
- IMPの選手が、どのような障がいなのか分からず苦心した。内容が事前にわかっていると、役員としてはありがたい。
- 良好な競技環境(スターター、出発、観察員、マーシャル)場内の完全な統制アナウンサーの進行が良かった。

#### (課題)

- 知的(ダウン)、デフ、視覚の選手の区別が分かるようなナンバーカードの色わけがよかった。
- 障がいのカテゴリーによりルールが変わること、そして一緒にレースを行ったことで瞬時に判断する必要性を感じた。
- 知的障がい者が参加するには、もう少し安全を確保が必要。
- 車椅子レーサーの動線等配慮する点があった。
- 召集のタイムテーブルの再検討。
- 競技時間の間隔が狭かった。(召集)
- 記録証発行依頼書、複数種目用に、男女の区別がないので追加してほしい。
- 係の仕事で何も見られなかった。昼食のとれるタイムテーブルの設定を。

- 視覚・聴覚の選手が走幅跳をする際、事前説明や受付時にチラシで徹底するなど「知らせる努力」がオール陸上の一つの使命の一つでもあると感じた。
- 審判も最低限の手話を覚えると良いと思った。
- プログラムが非常に使いにくい。
- 身近大会という目的であれば、全ての競技を非公認。互いの理解を深めるということであれば、例えば招集所ではちょっとした待ち時間に義足の説明などもできたり、レーサーをもっと近くで見たり、健常者との架け橋になれたかも。
- 事前の宣伝、DJの導入など参加者増、会場に集まった人が楽しく楽しめると良い。
- スタートでの選手紹介アナウンス内容を通訳することについては、どちらも耳が聞こえない人にとっては大切な情報保障。
- 跳躍審判員で呼び出しの際、各選手の与えられた時間は常に平等という学習の機会になるため良かった。手話通訳者不在の時は、筆談用や、数字、ひらがなの手話を身に着きたい。

・ 実行委員で会議や、準備を含め、良かった点、今後の課題等  
(実行委員会出席者のみ回答：自由記述)

- かけっこ教室の皆さんに手作りのメダルを渡すことができ良かった。とても喜んでいて。メダルの寄付を募り手作りメダルにすることで素敵なメダルが出来あがっていた。
- 試合開始前に1回説明や試技して頂けたら良かった。
- 障がいのある人に対しての基本的な配慮やサポートについての事前研修（オンデマンドなどで良い）が必要。障がい者スポーツ指導員の活用の検討。
- 金銭的メリットなどは必要。
- 準備、運営について、本当に必要なことを検証し、業務の精査が必要と感じた。
- 今後も、連携強化が重要。
- 複数団体で競技会を運営するには、細部にわたって詰める必要がある。
- トランシーバーにて連絡を取る方法は、デフの私たちにはとてもやりづらく、リアルタイムでどう動いているのか把握が困難で取り残された気持ちになった。

## 【全体の傾向と課題】

本大会は、「見る→東京パラ」「支える→東京陸協・日本陸連」「する→すべての選手」障がいのあるなしにかかわらず純粋に記録に挑戦しようという趣旨で、東京陸上競技協会のご協力を東京モデルとして、実施できたことは大きな一歩だと感じる。

これが記念大会で終わるのではなく、各地域陸協と連携していくことで、障がいのある無しにかかわらず、地域に根ざした大会が実施（普及）でき、そこから上位大会を目指し、競技力向上につながるステップになると考えられる。本事業では、各障がい者陸上競技団体及び東京陸上競技協会が連携し、普及、交流及び強化を目的とした2大会を実施した。

課題としては、障がい者スポーツ独自の用具が必要であり、ハード面（レンタル等の充実）でも早急に各地域が整備する必要性を感じた。

普及の目的から陸上教室の開催や、交流イベントも重要な目的であることがわかり、今後も各地域を含め、連携を深め、大会を継続・実践していきたい。

## (記事掲載)

オール陸上競技フレンドリー記録会実施要項 (15回の修正を行った)

<https://acrobat.adobe.com/link/review?uri=urn:aaid:scds:US:6fbdab2e-8095-358f-ad7c-4ff561ee6121>

3月21日大会記録結果

<https://acrobat.adobe.com/link/review?uri=urn:aaid:scds:US:de26a6e6-adcc-3351-83cd-38f231a50b03>

オール陸上競技チャレンジ記録会実施要項 (13回の修正をおこなった)

<https://acrobat.adobe.com/link/review?uri=urn:aaid:scds:US:6b455bd0-a1a0-36be-9038-314284d3ddde>

3月26日投擲記録結果

<https://acrobat.adobe.com/link/review?uri=urn:aaid:scds:US:6e4b2bde-bfa2-3f66-af9c-92e270f68eeb>

3月27日大会記録結果

<https://acrobat.adobe.com/link/review?uri=urn:aaid:scds:US:1e3d77c0-9037-3660-9226-83e76dafd6bc>

健全者と障がい者が同じレースに出走 「オール陸上競技記録会」3月に開催

[https://news.yahoo.co.jp/articles/a7b01f1bd730825899460cb76be1bae4911a6d55?fbclid=IwAR3abRtTcoBzXkHdq-aIGbEHwqbTT1QbysHI4KMwGcBgLai2\\_Jv7f-DmB5A](https://news.yahoo.co.jp/articles/a7b01f1bd730825899460cb76be1bae4911a6d55?fbclid=IwAR3abRtTcoBzXkHdq-aIGbEHwqbTT1QbysHI4KMwGcBgLai2_Jv7f-DmB5A)

「オール陸上競技フレンドリー記録会」が初開催！ 障がいの有無も年齢も問わず、ともに競い合う (パラスポプラス/2022年3月31日付)

<https://paraspoplus.com/sports/9561/>

障がいのある人もない人も「まぜこぜ」で競い合う「オール陸上」初開催 (ノーボーダー/2022年3月28日付)

<https://op-ed.jp/sports/5986>

スポーツ庁 SNS

[https://twitter.com/sports\\_jsa/status/1509093298916700164?s=21&t=vJE-PMSmSUMgn60wLgHIvA](https://twitter.com/sports_jsa/status/1509093298916700164?s=21&t=vJE-PMSmSUMgn60wLgHIvA)

[https://twitter.com/sports\\_jsa/status/1509093293862563840?s=29&t=vJE-PMSmSUMgn60wLgHIvA](https://twitter.com/sports_jsa/status/1509093293862563840?s=29&t=vJE-PMSmSUMgn60wLgHIvA)

障がいの有無や違いを越えて競い合う「オール陸上競技」初開催 | パラサポ WEB

<https://www.parasapo.tokyo/topics/99389>

「オール陸上競技フレンドリー記録会」が初開催！ 障がいの有無も年齢も問わず、ともに競い合う | パラスポ+！ | PARA SPO PLUS

<https://paraspoplus.com/sports/9561/>

誰もが一緒に競い合おう 「オール陸上記録会」初開催 障害の有無、経験も問わず子どもから大人まで：東京新聞 TOKYO Web

<https://www.tokyo-np.co.jp/article/166945>

NHK 山本選手世界新

[https://www3.nhk.or.jp/news/html/20220327/k10013554781000.html?word\\_result=%E3%83%91%E3%83%A9%E9%99%B8%E4%B8%8A](https://www3.nhk.or.jp/news/html/20220327/k10013554781000.html?word_result=%E3%83%91%E3%83%A9%E9%99%B8%E4%B8%8A)

マイナビニュース

<https://news.mynavi.jp/article/20220329-2307377/>